

科目名	学年	規定時間数	担当する教員の実務経験	授業内容
作業療法概論Ⅱ	1	30	作業療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	作業療法は作業を手段として対象者のニーズに適用しその効果を示していく治療法の1つです。作業活動の選択や活用方法は、作業療法士に委ねられています。この授業では、作業療法概論Ⅰで学んだことを基礎とし、さらに作業療法の考え方を深めていきます。
身体障害作業療法評価学Ⅰ	1	15	作業療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	作業療法評価とは、作業療法という一連の過程の中で、各種情報収集、観察、面接、検査・測定などの方法を用いて得られた情報を整理・分析・考察することです。その上で、対象者の障害像を総合的に把握し、治療目標の設定や治療プログラムの立案に役立てることでもあります。作業療法評価の目的・評価の流れなどの基礎的な知識を理解し、関節機能系検査である関節可動域の評価について理解し、測定方法の実際を習得する。
身体障害作業療法評価学Ⅱ	2	30	作業療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	作業療法は、人間関係と環境的な構成要素を含む目的活動を機能障害の解決および予防の手段として利用し、最大限の適応状態を引き出すことを目標にしています。作業療法における評価とは目的活動を選択するために全ての処置に先行して実施されるもので、作業療法実施上不可欠なものとされています。この授業では、各種評価方法の基礎技法・各種評価方法によって得られたデータの解釈等を学びます。
身体障害作業療法評価学実習	2	45	作業療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	作業療法は、人間関係と環境的な構成要素を含む目的活動を機能障害の解決および予防の手段として利用し、最大限の適応状態を引き出すことを目標にしています。作業療法における評価とは、目的活動を選択するために全ての処置に先行して実施されるもので、作業療法実施上不可欠なものとされています。この授業では、そのための各種評価方法の基礎技法の正確な実施方法を学びます。
日常生活活動学	2	45	作業療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	作業療法における日常生活への関わりは、作業療法の目的でもある「対象者が生き生きとした社会生活を送ることができるように援助すること」に通じていくもので、リハビリテーションを考えていく上で重要な部分でもあります。この授業では、日常生活活動の定義や範囲から障害別の生活障害の特徴と日常生活改善への援助の実際まで、日常生活活動の全般的な学習をしていきます。
地域作業療法実習	2	90	作業療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	地域作業療法が実施されている施設を見学し、その目的を理解する。また、そこでの「介護体験実習」「レクリエーション実習」「特別支援学級実習」の経験を通して、地域リハビリテーション・地域作業療法の実践を理解し、地域の社会資源や、そこに関わる専門職種について学び、その中で求められる作業療法士の役割について学習する。
作業療法総合演習	3	60	作業療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	臨床実習Ⅰを控えた作業療法学生として、臨床で必要な各種検査測定、情報分析、統合・解釈、リスク管理など一通りの知識・技術の定着を目指します。
日常生活活動学実習	3	45	作業療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	作業療法における日常生活活動への関わりは、リハビリテーションを取り巻く環境において重要な部分です。この授業では、日常生活活動の評価方法や治療・援助方法に関するポイントを様々な実習から学んでいきます。また、作業療法の対象疾患について実際に日常生活活動プログラムの立案を行い、その基本と要点を学びます。これらの実習により日常生活活動を援助していく上で大切な作業療法の役割を学習しそれらを実践していける知識と技術の習得を目指します。
	計	360		